
朝日と春風を浴びて

聖騎士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝日と春風を浴びて

【Nコード】

N9474K

【作者名】

聖騎士

【あらすじ】

人生とは一瞬のキラメキに似ている。
春風を全身に受け、今私は生きている。

（前書き）

会話のない一人称独白小説です。

人生とは一瞬のキラメキに似ている。

春のやわらかい空気を全身に受け、私は思いつきり息を吸い込む。遠くの山々の稜線が朝日に輝き、一日の始まりを告げている。細長い筋雲がたなびくように流れているのがわかる。あの雲はどこへ行くのかな。

私は小さいころから明るく活発な子だった。幼稚園のころは男の子を泣かせて、先生を困らせてたっけ。そういえば仲のよかった梅組のみっちゃん、今も泣き虫なのかなあ。そんなことないか。もう私たち高校三年生だもんね。

活発で身体を動かすのが好きだった私は、小学校ではいつもリレー選手。男の子にだってかけっこなら負けなかった。同じクラスの健児くんは、いつも私に負けてたな。そのたびに私に再チャレンジしてまた負けて。今思えば彼、私のこと好きだったのかも。お前には絶対負けない、が口癖だったもんね。

風でスカートがばたばたとしたためく。もしかしたら見えちゃってるかも。まあ、いいか。春だし。私は両手を挙げて風を全身で受け止める。私はこうしてる今も生きてるんだぞって表現してみる。

中学校からかな。周りが少しずつ変わってきたのは。恋愛とかに疎かった私は、昌治くんが私に気があったなんて全然気づかなくて。亮子には悪いことしたな。そんなことも思いやれなかった私は、亮子の前で昌治くんのことキモいとか散々。そりゃいくら親友でも怒るよね。ごめんね、亮子。

公務員の父親と看護師の母。スポーツマンでイケメンで、身長が高くって頭までいい弟の卓也。みんな私の自慢の家族。私だけが家族には自慢されない。眉間にシワを寄せ、私を見つめる家族の目。いったいどこでボタンを掛け違えてしまったんだろう。中学時代執拗に続いたいじめは高校に進学すれば終わりだと思っていた。亮子は高校は違っても、私を忘れてくれることはなかった。

私にはだれも友達はいない。相談したくてもネットの掲示板の相手はすぐに出会いを求めてくる。近づいてくる受験。大学に行けば何か楽しいことが待っているのだろうか。その先にはすばらし人生が待っているのだろうか。連日報道される事件は、私の未来に自由はないことを教えてくれる。

でも私は知っている。この先には間違いなく自由が待っている。春の風は耳元で強く唸り、朝日が私の全身を包む。

ほら私の自由は目の前にある。私は目前に迫ったアスファルトに微笑む。

鼻が触れる。そのまま鼻骨が砕け、額が触れる。木の枝を何本も折るような軽い音が連続して聞こえて、頭蓋骨が割れていく。大きな破片が脳を切り刻み、後頭部からピンク色の脳漿といっしょに飛び出す。身体の重みに耐えかねて鈍く軋んだ頸骨が、甲高い音をさせて折れる。切断面の尖った脊髄が、私のうなじを突き破る。

背骨が何十カ所も同時に破砕されていき、衝撃で肋骨が一斉に胸から飛び出す。肩の骨は外れ、腕の骨が肘を突き破って飛び出してくる。打ち付けられた指がひしゃげていき、薬指と小指がちぎれ飛ぶ。

内圧の高まった私の二つの眼球は勢いよく飛び出て、神経の束を

引きちぎりながら歩道を転がっていく。外れた顎関節が頬肉を突き破り、噛みちぎられた舌が弾け飛ぶ。耳からは生温かい脳漿が溢れ出て、アスファルトにピンク色の小さな水たまりを作る。

地面に跳ね返った反動で、右膝は可動範囲を超えて前方に折れ曲がってちぎれ飛ぶ。折れ曲がったまま私の身体の下になってしまった左足は、股関節から大きな音を立てて外れる。膀胱が破裂し、溜まっていた少量の尿が、外れた左足の付け根から飛沫を上げてアスファルトに水玉模様のしみを作っていく。

自分の身体を抜け出した私は、次第にその光量を増す朝日が昇る空へと浮かび上がる。ふと見下ろすと、かつて私だったものが真っ赤な塊となって、モノクロームの歩道に鮮やかな彩りを添えている。私は自由になった。

人生とは一瞬のキラメキに似ている。

(後書き)

ごめんなさい m (—) m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9474k/>

朝日と春風を浴びて

2010年10月12日19時39分発行